

漁業者と市民で取り組む藻場保全活動

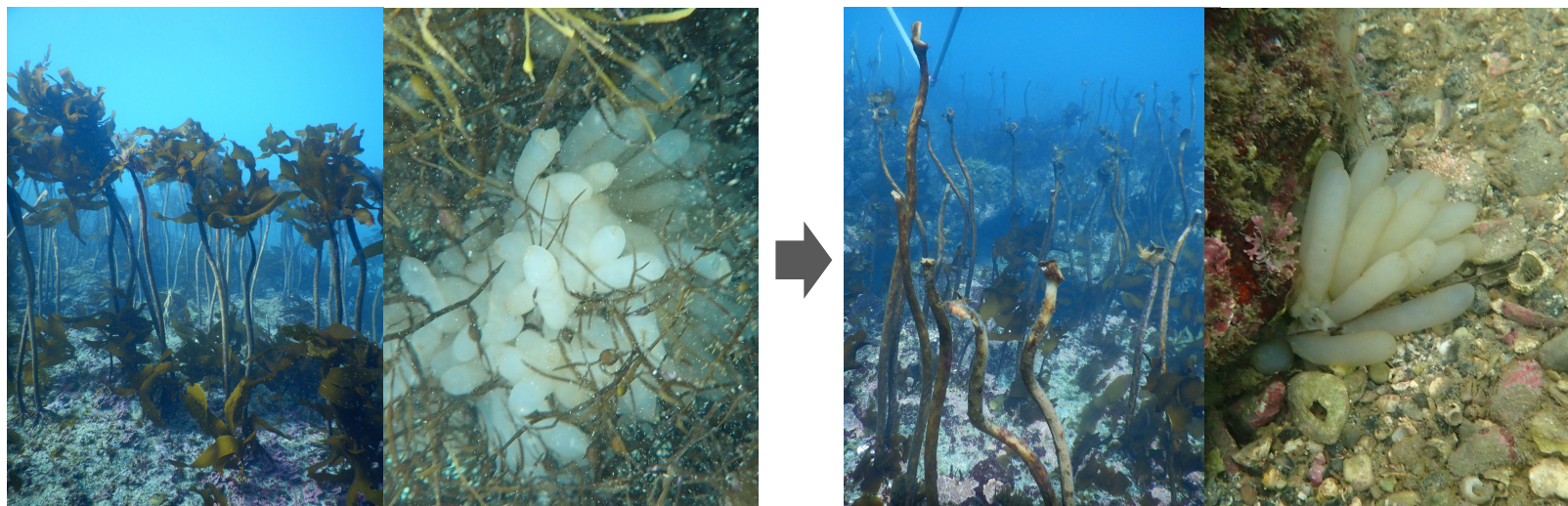


FABO

“海と共存する文化”を育てる

設立:2024年1月 会員数:29名 協働している漁協:三和漁協城ヶ島支所様、みうら漁協諸磯支所様

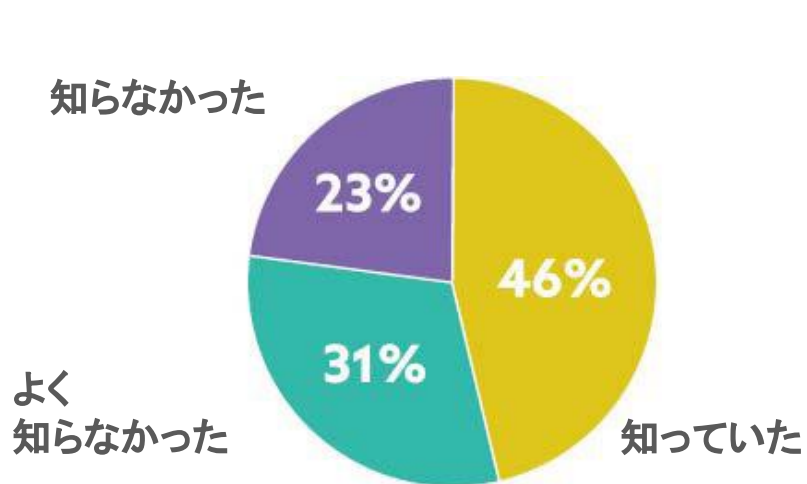
海洋環境の「急激な変化」



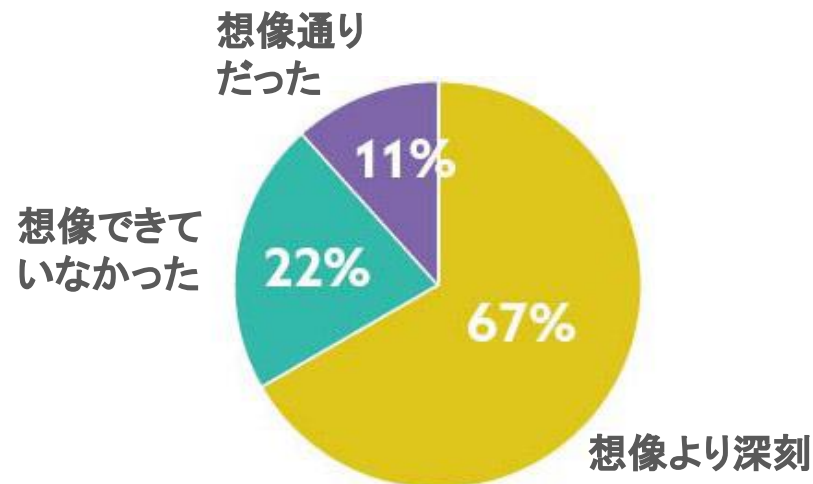
海藻が食害に遭い磯焼けが進行。海藻に産み付けられていたアオリイカの卵は、岩と砂地の間など所構わず産み付けられているものもあった。城ヶ島、諸磯ではタコの姿も見えなくなった。これらの変化に漁業者や専門家が対応していることは一般的に認知が低い。

漁業者や専門家だけの問題ではなく市民全員で取り組む問題

海洋環境の認知

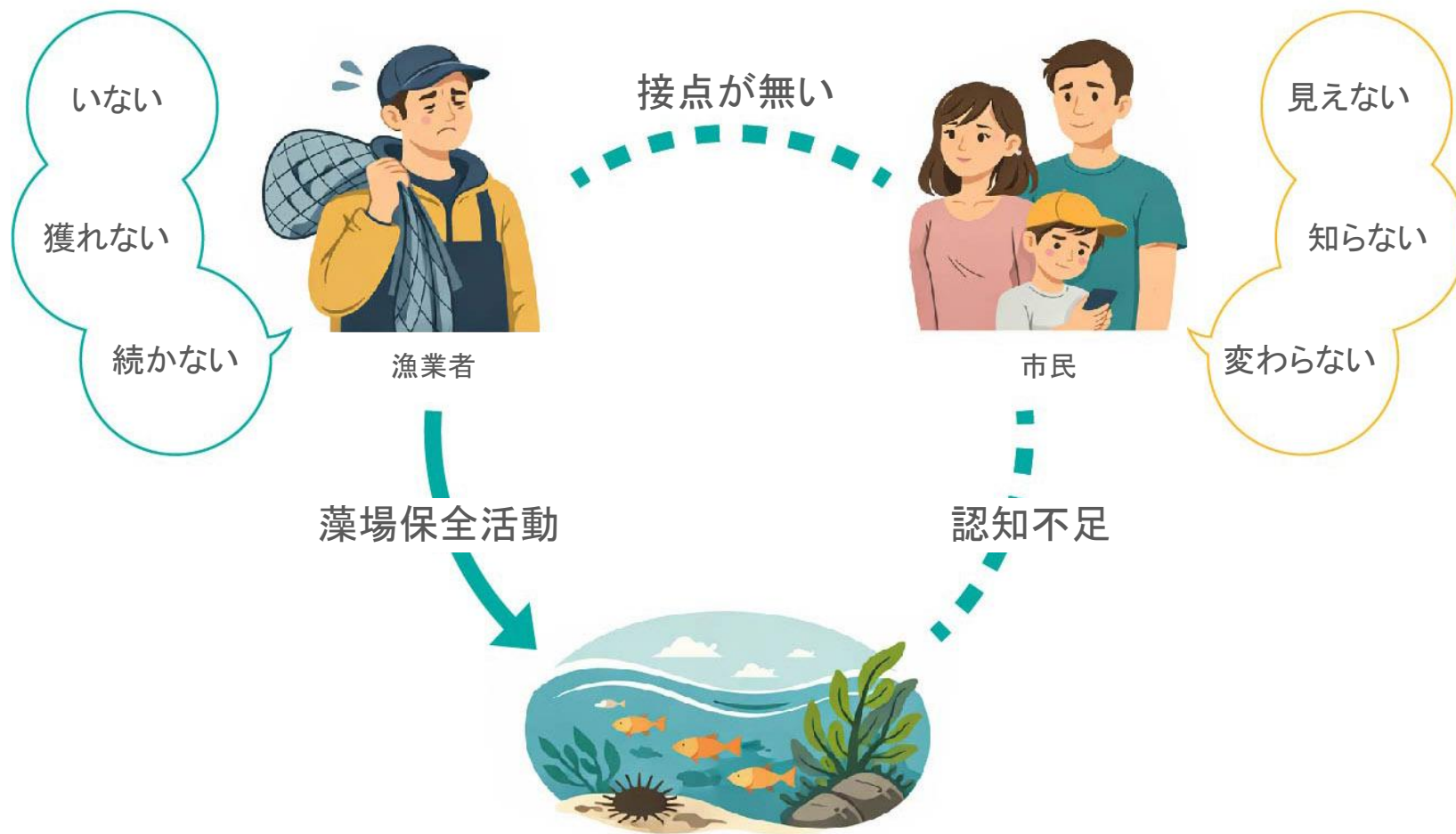


Q:「藻場」「磯焼け」の意味を知っていましたか



Q: イベントで感じた海の状態はどうでしたか

漁業者と市民の“ギャップ”

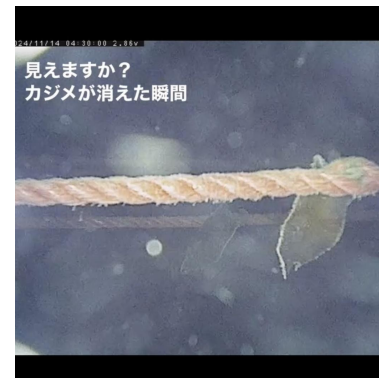


活動実績: SNS発信

三和漁協 城ヶ島支所



みうら漁協 諸磯支所 (FABOアカウント内)



 jogashima_gyokyo 2023.4開設		
投稿	フォロワー	ビュー/投稿
187	707	1000前後

 forabetterocean_miura 2022.11開設		
投稿	フォロワー	ビュー/投稿
193	629	1000前後

(数はFABO投稿含む)

活動実績：海藻等の設置



- ・早熟性カジメをロープに挟み、ロープ両端に土嚢を付けて設置。
一箇所は以前カジメが生えていた水深4-6m程度の小さな入り江。アカモク、サザエ、産卵床も同じ場所へ投入。
- ・もう一箇所は付近にカジメが残る水深3-5m程度の小さな湾へカジメを設置。
- ・PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)を意識した活動を心掛ける。

城ヶ島	カジメ	アカモク	サザエ	アオリイカ産卵床
回数	6回	2回	1回	2回
数量	735本	325本	1000個	7基

* 2025年度実績

活動実績: ウニ密度管理 (特別採捕許可取得)

			
城ヶ島	2箇所で実施。こぞうとトングを使用。小さな溝や岩下に入り込んでいることが多いためこぞうが活躍。A ZONEにはまだ天然のカジメが残るがウニもB ZONEより多い。取りきれない量。	回数:5回	結果:2,735個

			
諸磯	浅場に局所的に残る天然のカジメ藻場の保全と拡大。潮間帯の磯の隙間に数センチ〜のチビウニが無数に生息している。ここから水深1〜8m程度にかけてスクレーパーにて駆除を行う。	回数:3回	結果:5,055個

活動実績: ウニ密度管理 (採捕したウニを寄贈)

神奈川県
水産技術センター

ウニの研究へ



ウミシダ類研究

科学館の
特別展へ



活動実績：水産多面的機能強化対策 （ボランティア要員）

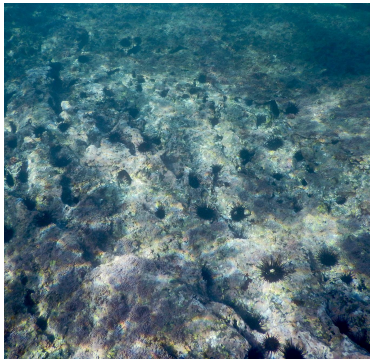


城ヶ島

**アイゴ
稚魚
密度管理**

2025年はアイゴの稚魚の大群が多く見られたため、成魚になる前にタモ網で採捕を行った。採捕時期が少し遅れた(8/16)ため稚魚が成長し動きが素早くなり思うような結果に至らなかった。次回は採捕方法に投網等も検討し時期を早め 6、7月を目処に行う予定。また、同場所で僅かながら天然アマモを発見したので、この成長もモニタリングしたい。

結果：
アイゴ25匹、タカ
ノハダイ2匹



諸磯

**ウニ
密度管理**

浅場に局所的に残る天然のカジメ藻場の保全と拡大。潮間帯の磯の隙間に数センチ～のチビウニが無数に生息している。ここから水深1～8m程度にかけてスクレーパーにて駆除を行う。

回数：3回

結果：5,055個

活動実績：海洋環境教育



「城ヶ島クラス」

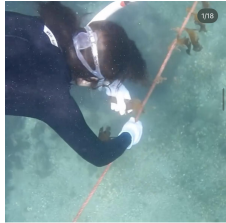
年1回開催の海洋環境教育。机と椅子を磯に設置し教室を再現。インパクトのあるビジュアルでまずは目を留めてもらう。内容は**漁師さんのリアルトーク、海藻、サザエ、産卵床の設置**。実際に体験することがメイン。
開催回数：2回、のべ参加人数：113名（スタッフ含む）



「みんなの藻場」

イベント参加率の高いゲストへ向けての特別なイベント。1回目は一緒に海に入り**ウニ密度管理**（水面下での駆除）を行う。メンバーのスキンドайビングインストラクター2名を含め徹底した安全管理の下、開催。2回目は**早熟性カジメ、アカモク設置**。開催回数：2回、のべ参加人数：46名（スタッフ含む）

その他の活動実績と課題



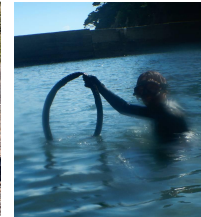
【モニタリング】

海藻、アオリイカ産卵床、サザエ生育状況のモニタリング。
城ヶ島の2箇所を実施
年間約10回程度。



【海岸・海中清掃】

地域清掃団体とのコラボ清掃や、FABO独自での清掃活動を実施。



地域清掃団体とは、陸と海に分かれ、当団体が海の清掃を担当した。



【海外在住の子供たちへオンライン授業】

日本語継承団体 EKKA(フランス)が中心となる学習会にて、三浦の海洋環境と団体活動の紹介授業を開催。(2回実施、継続中)



【海とヨガとキャンドルと】

地域の海を知るきっかけが少ない地元の方々へ向けて、海の現状を知ってもらうためのイベントを開催。興味のある女性が多い「マインドフルネス」の切り口から企画したイベント。(2回実施)



【海の勉強会】

団体内で海活が落ち着く冬期に4回に分けて海洋環境の基礎的な学習会を開催。

- 第1回 地球温暖化とは
- 第2回 炭素とは
- 第3回 炭素循環
- 第4回 ブルーカーボン生態系とFABOの活動

今後の課題

- ・藻場の再生に向けてPDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)を実践し一歩ずつ成果に近づける。
- ・活動資金の調達。
- ・無理のない継続的な活動へ向けての人材維持、確保。

活動から生まれた変化



- ・漁業者との実質的な協働体制の確立
- ・市民参加型の藻場活動が定着
- ・海の問題に対する市民の意識向上
- ・SNS発信による認知度の向上
(多方面からのアプローチ、ウミコイ、TED等)
- ・行政・研究者・企業とのつながりが拡大
(日本海洋事業様、パタゴニア(鎌倉店)様)



“海と共存する文化”を育てる



藻場保全活動に関わる皆さまに

心より感謝申し上げます。